

市財政について

質問 今後二カ年のプライマリーバランスについて伺いたい。

答弁 合併以来、市債にかかる元金、利子償還を合わせた元利ベースでの黒字化は維持してきているが、平成二十年度からは元金ベースでの黒字化も維持しており、将来負担である市債残高の着実な削減を図っている。平成二十一年度は約三十三億円の償還に対し、約二十七億六千万円の市債発行で、約五億円の黒字となっている。平成二十二年、二十三年度は、市債の元金償還額を約三十一億円と見込んでおり、これを市債発行の上限額として黒字化を維持していきたい。

プライマリーバランスとは…

国や地方自治体の基礎的な財政収支。
一般会計において、歳入総額から国債(地方債)発行収入を差し引いた金額と、歳出総額から国債(地方債)費を差し引いた金額のバランス。

公用車について

質問 購入予定の市長車の

車種について伺いたい。
また、公用車を減らすことによる年間削減額を伺いたい。

答弁 市長車は、ワンボックスタイプのハイブリッド車の購入を検討している。また、老朽化の著しい車両を中心に管理費用を縮減するために、車検時期等を勘案し約三十台を廃車し、新たに軽自動車を十台購入することとしている。これにより、約三百万円の減額見込みとなっている。



四月から一括管理となった公用車

コンビニ収納について

質問 市税等のコンビニ収納の状況について伺いたい。

答弁 コンビニ収納は、全国各地のコンビニエンスストアを通じて市税等を納付

する仕組みであり、いつでもどこからでも納付できるため、納税者の利便性向上に役立つとの考えから実施したものである。平成十九年度には軽自動車税、平成二十年度からは、それに市県民税、固定資産税、国民健康保険税を加え、計四税目を実施している。今年度の各税目の利用件数割合は、軽自動車税一九％、市県民税一四・三％、固定資産税一〇・七％、国民健康保険税一〇・四％となっている。軽自動車税の利用件数は、前年度と比較すると約一・七倍の伸び率を示している。

民生福祉

病院駐車場について

質問 中央病院駐車場の有料化について伺いたい。

答弁 同駐車場は官庁街に面しており、無料とした場合、一般の駐車が増え、外来患者や病院利用者の駐車ができなくなるが予測される。また、駐車管制施設の設置及び維持管理に要する経費を捻出する必要がある。赤字減少、収入確保

病院運営について

質問 外部の経営コンサル

タントを導入する考えについて伺いたい。
答弁 事務経費、医療以外の経費、委託料については、専門のコンサルタントの意見を入れる必要があると考えている。医療費については、プロジェクトチームで今後検討していきたい。

を図るため実施するものであるが、三十分以内の送迎、病院利用者には駐車を無料とするほか、入院患者の家族には、有料ではあるが、割安の駐車券を発行するなど配慮していきたい。

中央病院赤字解消最優先の策について伺いたい。

答弁 病院の経営については、非常に厳しい状況となっており、経営健全化を最優先に取り組まなければならないと考えている。策定中の病院改革プランに収益の確保策、費用の削減策を盛り込んでいるが、赤字解消策として第一に医師確保が最重要課題であると考えている。医師確保のために、新しい病院の魅力満載したホームページの見直しやチーム医療の推進、包

括的がん治療や緩和ケアなど、医師が働きたくなるような魅力ある病院づくり、医師が働きやすい環境整備をしていかなければならない。第二に、今まで以上に十和田地区医師会、上十三地区医師会とそれぞれ医療機能を分担し、紹介及び逆紹介等の医療連携を行い、収入を増やしていく必要がある。第三に、病院経営プロジェクトチームを主体に今まで以上に職員一丸となって収入を増やし、支出を減らしていく取り組みを進めていかなければならない。第四に、医師の待遇改善を図っていく必要がある。

国民健康保険について

質問 資格証明書の発行状

況と保険税の収納率について伺いたい。
答弁 平成二十一年二月二十八日現在、市内の国保世帯数は一万二千二百三世帯で、そのうち滞納世帯は三千四百十五世帯、二七・九％となっている。短期保険証の発行は六百九十世帯、五・七％、資格証明書は二百二十六世帯、一・九％となっている。保険税の収納率については、一般保険者で平成十七年度は九〇・七九％、平成十八年度は八九・一五％、平成十九年度は八八・七二％となっている。

健診センターについて

質問 健診センターの業務



準備が進む健診センター(旧西棟一階)

